

●収録内容

『唯研ニュース』第1号～88号
 (一九三三年一月～一九三八年二月)
 『ダイヂェスト』第89号～96号
 (一九三八年四月～一月、学芸発行所刊)
 *第7号、第9号、第89号、第91号、第92号は欠号
 付録Ⅱ「唯物論研究会ニュースNO.4」
 (謄写版刷り、1ページ)

●体裁

A4判・上製・函入・総424頁

*『ダイヂェスト』のみ2面付

解説・総目次・索引付き

●解説 渋谷一夫(横浜国立大学非常勤講師)

北林雅洋(香川大学教授)

●推薦 小川晴久(東京大学名誉教授)

●原本提供

江口輝子氏、湘南大庭市民図書館、関東学院大学図書館

●刊行 2012年2月

●定価

本体19,000円+税 ISBN978-4-8350-7206-7

①軍医官の戦場報告意見集

高崎隆治編・解説 200頁 1046-5

②『集報』—南京日本人收容所新聞

山中徳雄編・解説 150頁 1047-2

③中華民国よりの掠奪文化財総目録

422頁 1048-9

④興亜青年勤労報国隊 東朝義記録

北博昭編・解説 297頁 1049-6

⑤火焔樹—東南アジア強制労働下の機関誌

北博昭編・解説 286頁 1050-2

⑥軍紀・風紀に関する資料

額原厚編・解説 164頁 1051-9

⑦支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料

北博昭編・解説 300頁 1052-6

⑧俘虜情報局・俘虜取扱の記録(付)海軍兵学校「国際法」

茶園義男編・解説 420頁 1053-3

⑨GHQ(マ元帥)処刑命令書(上・下)

茶園義男編・解説 803頁 1054-0

⑩昭和十年前後期支那駐屯軍憲兵部文書

北博昭編・解説 296頁 1057-1

⑪朝鮮徴兵準備読本

金英達編・解説 120頁 1058-8

⑫特殊労働者の労務管理

飛田雄一編・解説 300頁 1059-5

⑬大東亜舞台芸術研究所関係資料

藤田富士男編・解説 140頁 1060-1

⑭満州建設勤労奉仕隊関係資料

北博昭編・解説 626頁 1061-8

⑮『中国人日本留学史稿』

小川博編・解説 230頁 1062-5

⑯興亜学生勤労報国隊関係資料

北博昭編・解説 598頁 1063-2

⑰興亜院刊行図書・雑誌目録

井村哲郎編・解説 300頁 1064-9

⑱久米島住民虐殺事件資料

吉浜巖編・解説 210頁 1065-6

⑲学生義勇軍関係資料

北博昭編・解説 325頁 1066-3

⑳二・二六事件警察秘録

北博昭編・解説 380頁 1067-0

補集① 原子爆弾災害調査報告全5冊

大滝英征編 総1,794頁 7200-5

補集② 唯研ニュース

渋谷一夫・北林雅洋解説 424頁 7206-7

※ISBNはすべて978-4-8350-が頭につきます。

不二出版

〒113-0025
 東京都文京区向丘1-2-12
 電話03-3812-4433
 ファクシムル03-3812-4464
 振替001600294084

十五年戦争重要文献シリーズ 補集2

唯研ニュース

復刻版

全1巻

1933年～1938年

思想史研究、戦時言論史を補完する幻の資料!

戸坂潤、岡邦雄、三枝博音らによって、一九三二(昭和七)年に創設された唯物論研究会は、満洲事変以降の反動的な思潮にあつて、旺盛な研究活動を展開した組織である。

『唯研ニュース』は、この唯物論研究会の会報として、一九三三(昭和八)年一月に創刊され、一九三八(昭和一三)年一月までに全九六冊が発行された(第89号から第96号まで「ダイヂェスト」)。

一号あたり二ページから四ページで構成された本紙は、理論的な研究論文が主であった機関誌『唯物論研究』では掲載されなかった、会員個人の身近な情報を豊富に伝えている。総会や研究会の報告、会員の消息といった事務的な連絡事項だけでなく、野球チームの結成、茶話会やピクニックの開催といった会員同士の日々の交流が記された。

さらに、科学、文学、映画や時局に対する速報的な評論・随筆も発表されるなど、研究構想の場としても機能した。

「唯物論研究会とその会員にとつての、日記であり、新聞であり、又手紙でもある」(戸坂潤)



A4判・上製・函入・総424頁
 解説・総目次・索引付き
 解説：渋谷一夫、北林雅洋
 推薦：小川晴久
 刊行：2012年2月
 定価：本体19,000円+税

不二出版

推薦の辞

若き知識人たちの研鑽と気魄・威厳

『唯研ニュース』から教えられるもの

小川 晴久(東京大学名誉教授)

唯物論研究会は日本が十五年侵略戦争に突入した翌年一九三二年秋に生まれたが、本『唯研ニュース』はその一年後に創刊された。戸坂潤は「創刊の辞」の中で、「非常時」時局下、唯研の研究活動の重大性に鑑み、会と会員にとって月二回発行のニュースは「絶対必要」なもの位置づけた。財政上の負担はあつてもと、事実、旺盛な研究会活動が毎週展開された。哲学部、自然科学部、社会科学部、芸術部の各部研究会や特別研究会の予告(予報)が、毎号のニュース冒頭を飾っている。さぞかし活発な議論が聞かれたであろう。これらの研鑽なくして月刊の『唯物論研究』や『唯物論全書』の刊行もない。戸坂潤は、日記をつけ、新聞を読み、手紙を書くように、会員たちにニュース(二四頁建て)に投稿を求めた。さて『唯研ニュース』の出来栄えはどうであつたか。短い字数の推薦文の中で全八八号の内容を批評するのは難しい。私の関心を引いたもののみを順不同で記す。

先ず有名な家族ぐるみのピクニックの記事。鍋・材料持参で豚汁(大好評)を作ったことがわかる。知らなかつたことは沢山あるが、唯研野球チームの存在もその一つ。メンバー表もある。唯研シンボルマーク「フェニックス(不死鳥)」の存在は知っていたが、その誕生の経緯がわかる。発表になった図案と唯研本誌の表紙を第三九号から飾る図案との微妙な違いも、このニュースを見ないとわからない。唯研の歌を作ろうという声が上がリ、巖木勝(岩倉政治)が一案を披露している。それがなかなかいい歌詞だ。しかし曲が付く前に解散に迫り込まれたことは、何とも残念であり腹立たしい。珠玉の一文も眠っていた。戸坂潤の「智能に威厳あれ」という小文(論説)である。全集未収! 戸坂潤らしいとてもいい文である。悲しいニュースもある。熱血漢の論客早川二郎の早すぎた秩父山中遭難死。私は慌てて当時版を重ねたという『日本歴史読本』を読み始めた。虐殺された小林多喜二の作品の「気魄」を論じた自然科学者石井友幸の一文の発見も貴重である(ニュース五〇号)。この気魄は戸坂潤の言う威厳と併せて、唯研を根本づける言葉であろう。今回の復刻なしにこれらの発見はなかつた。感謝である。



【唯研映演クラブ】創設に上せて 和井英一
『唯研映演クラブ』創設の趣意
『唯研映演クラブ』の目的
『唯研映演クラブ』の組織
『唯研映演クラブ』の活動
『唯研映演クラブ』の収支
『唯研映演クラブ』の役員
『唯研映演クラブ』の会費
『唯研映演クラブ』の注意事項

北東の風 三十三
『唯研』の歌 (巖木勝作詞)
唯研は 眞理を要する仲間
行こう手を携すあかり
我が前に 自由の門はこし
無権利の 心ははげしくとも
旗として
眞理の旗を掲
希望にたぎる
唯研は
世界の智慧の燈台
鋼とひずみ心打打ち
勝利の朝を招き手に
戦ふる自由を
馴れたる学徒よ、同志、
来りて見よ
ここに唯研

Table with 2 columns: Date and Content.
11月30日(木)後6.30 社会科学合同大会
12月2日(土)後6.30 歴史・史的唯物論會
12月3日(日)後2.00 現代哲批判部門氏
12月3日(日)後6.30 自然科学合同氏

創刊の辞 戸坂潤
『唯研』の創刊
『唯研』の目的
『唯研』の組織
『唯研』の活動
『唯研』の収支
『唯研』の役員
『唯研』の会費
『唯研』の注意事項

昭和十一年(昭和十三年刊) 映画創造 全2巻
解題(富士田元彦)・総目次付き
菊判・上製・函入・総1,110頁
本体揃価格18,000円+税
'86年6月刊(復刻版)

関連図書
昭和4年2月創建されたプロキノ(日本プロレタリア映画同盟)は、「プロレタリア映画生産発表のために闘ふ」をスローガンに製作上映運動を積極的に推し進めた、戦前日本映画史における最も戦闘的な映画集団であつた。昭和8年以降権力の弾圧のため活動不能に追い込まれ、その2年後、合法的な理論活動の場として創刊されたのが「映画創造」である。岩崎昶、今井正、戸坂潤、中条百合子らの寄稿が見られる。全12号を収録し復刻。
●推薦1 北川鉄夫・佐藤忠男・祖父江昭二
東京記者聯盟刊/昭和2年/昭和3年刊
号外 全2巻・別冊1
B5判・A5判・上製・総894頁
本体揃価格35,000円+税
'04年10月刊(復刻版)
本誌は、金融恐慌に始まった不景気・失業・金融不安の時代に、民衆に眞実を報道することを目的に刊行されたプロレタリアートの機関誌。普選実施に絡む既成政党間の抗争、無産政党の活動ぶりを紹介し、また治安維持法に強く反対した。この時期は、プロレタリア文学運動の隆盛期と重なり、本誌文芸欄を特徴づけている。近代政治史・メディア史研究等の貴重な資料である。
●推薦2 堀切利高

内容見本